

一般口演（多領域専門職部門）

一般口演（多領域専門職部門）01（II-TOR01）

座長:

本多 有利子（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）

Thu. Jul 7, 2016 8:40 AM - 9:20 AM 第F会場（シンシア サウス）

II-TOR01-01~II-TOR01-05

8:40 AM - 9:20 AM

[II-TOR01-05]心筋炎に対する体外式膜型人工肺（ECMO）導入例の適応判断の現状

○浦田 晋, 林 泰佑, 真船 亮, 三崎 泰志, 金子 正英, 小野 博, 賀藤 均 (国立成育医療研究センター病院)

Keywords:心筋炎、ECMO、予後

【背景】心筋炎は、無症候性から短時間で心停止にいたる例まで重症度が極めて広い。内科的治療抵抗性の循環不全に対する体外循環は有用だが、その適応基準は明確でない。

【目的】A病院の心筋炎に対するECMO導入例の適応判断について現状を明らかにすること。

【方法】2002年4月から2015年12月までにA病院に入院した18歳未満の心筋炎40例についてECMO導入群（E群）とECMO非導入群（N群）に分け、臨床像、検査所見、予後を比較した。

【結果】E群19例（男性7例、平均年齢 5.9 ± 3.2 歳）、N群21例（同12例、 4.5 ± 4.5 歳）であった。低血圧性ショック、脈拍数異常を認めた例は両群間で差はなく（ $p=0.20$ 、 $p=0.23$ ）、E群では完全房室ブロック、心室頻拍、心室細動といった致死的不整脈が多く（15例 vs. 3例、 $p<0.01$ ）、CPK（ 2540 ± 3130 vs. 988 ± 1670 IU/L）、AST（ 1660 ± 3800 vs. 207 ± 195 IU/L）、LDH（ 2460 ± 4130 vs. 799 ± 609 IU/L）が高値であった（ $p<0.05$ ）。レントゲン検査での心胸郭比（ 53.2 ± 5.3 vs. $57.5 \pm 6.2\%$ ）、心臓超音波検査での左室拡張末期径のz-value（ 0.05 ± 1.29 vs. 2.79 ± 2.79 ）はE群で低値であった（ $p<0.05$ ）。生存退院率はE群79%、N群100%であった。院外心停止4例中3例は死亡退院であり、生存退院例も重度の神経学的後遺症を残し遠隔期に死亡した。

【考察】致死的不整脈や末梢臓器障害を示唆する逸脱酵素の上昇、左室拡大のない例でECMO適応となる傾向がみられた。これらを適応判断とする心筋炎のECMO導入例の予後は満足しうるものであった。一方で院外心停止のECMO症例の生存率は低く、生存した場合の神経学的転帰は不良であった。

【結論】心筋炎において、致死的不整脈や逸脱酵素の上昇、左室拡大によるECMO適応判断は妥当であると考えられた。